

令和2年1月21日
総長選考会議

望まれる総長像について

京都大学は、その基本理念（平成13年12月4日京都大学評議会制定）のもと、今後さらに、世界をリードする大学としての地位を確立し、その使命を達成していきます。そのために、京都大学総長は、以下のような資質、能力を備えていることが望まれます。

第一に、人格が高潔で、学識に優れ、大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有するとともに、学内外の人々の信頼を得ることのできるトップリーダーとして、京都大学の未来を切り拓く改革を推進し、活力ある教育研究の場を実現できる、企画、実行、対人関係などの力量を備えていること。

第二に、京都大学の誇りある歴史とそれを創り出してきた先人の努力に敬意を払い、京都大学の基本理念の実現に向けた明快なビジョンと方策を提示できること。

第三に、多様な教育研究分野の現状を理解し、それらの分野の将来への展望を持つとともに、大学の財政基盤の確立と組織内の適切な資源配分を実現できる、優れた総合的マネジメント能力を有していること。

第四に、広く社会の状況を把握し、多様な人々との信頼関係を築くことによって、迅速かつ的確な使命達成を可能とするネットワークを国内外に形成できること。

平成 13 年 12 月 4 日 京都大学評議会制定

京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多
元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由
と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動
により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の
研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として
自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和
ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成す
る。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強
めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の
調和ある共存に貢献する。

運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊
重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会
的な説明責任に応える。